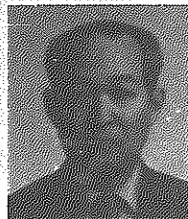


無事に終わり 大成功

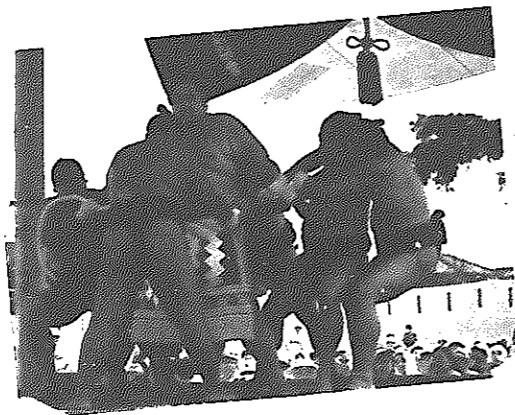
大相撲白根場所
実行委員会 委員長
菅川喜一郎さん



昨年の3月に計画を立ててから1年5か月の間、苦勞の連続でした。公式の会議だけでも40回を越えています。

関取衆の到着とともに慌ただしさが増し、あっという間に終わったような気がします。行き届かない点もあったようですが、皆さんの御協力のおかげで、けがや事故もなく、無事に終わることができました。厚くお礼を申し上げます。

相撲協会からもお褒めの言葉をいただき、まずは大成功というところでしょうか。



◀横綱大乃国の編締め。化粧まわしと綱を合わせた重さは15キロ。



▲横綱北勝海の土俵入り。



▶小錦の気迫の寄り。



▲大きな小錦は人気者。声援もひときわ高く。

▼しょっきりに場内は大爆笑。行司さんも大熱演です。



カメラアイ

市制30周年記念 大相撲白根場所

8月17日(休) 白根小グラウンド

昭和15年以来という大相撲の巡業に、白根が沸きました。横綱北勝海や大乃国、大関小錦などの人気力士が登場。詰めかけた約3500人の相撲ファンは大喜び。「デッケー……！」と、しばらく口がふさがらない男の子。「テレビで見るのとは違うね」とおぼあちゃん。

200人を越える実行委員や、青年や婦人の各種団体がボランティアとして汗を流し、白根場所を支えます。迫力ある取り組みに加え、しょっきりや相撲甚句、力士の髪結いなどの珍しい相撲界の行事に、相撲ファンにはこたえられない一日となりました。



▲益荒雄に挑むチビっ子力士。関取もタジタジです。



▲横綱決戦は大乃国に軍配が。(右：大乃国、左：北勝海)



▲暑い夏の日ざしが照りつけます。ときおり吹く風が、暑さをいくらか和らげてくれました。



▲土俵を作る呼出し永男(のりお)さん。2尺5分の俵24個で円型を作る。土俵作りは呼出しの仕事。



▼8月10日、白根小グラウンドに土俵が出現。柱を立てた穴の深さは90センチ。



▲先発として8月3日から来市の北陣親方(元麒麟児)

本市に大相撲がやってきたのは実に半世紀ぶりのこと。昭和15年、羽黒山一行の巡業に、白根町(当時)は沸き返りました。大那作平さん(古川・64歳)は、当時の日記をたいせつに保存しています。

—— 9月20日

青い青い空に飛行機が飛んでいた。防空演習だ。鈴木さんが手紙持って来てくれた。見たら羽黒山一行は、白根小学校新グラウンドで20日午前4時打ち出し、入場者1万以上。同町希有の盛況で(中略)今春新造した公設相撲場開きを羽黒山関の土俵入りで、盛大挙行了した(略) ——

日記には、新聞から切り抜かれた「豆力士に稽古をつける羽黒山の写真」などもはられています。

「満州から逃げるようにして引き上げてきたが、この日記を、あの状況の中でよく持ち帰ることができた」と話す大那さん。半世紀ぶりにやって来た大相撲に、語り尽くせない思い出が去来するようです。